

減災に向けた取り組みの紹介

【平成29年度】

平成30年5月29日

重信川大規模氾濫に関する減災対策協議会

1. 重信川流域の取り組み（抜粋）

洪水を河川内で安全に流す対策

～JR石手川橋梁上流右岸高水敷掘削の完了～

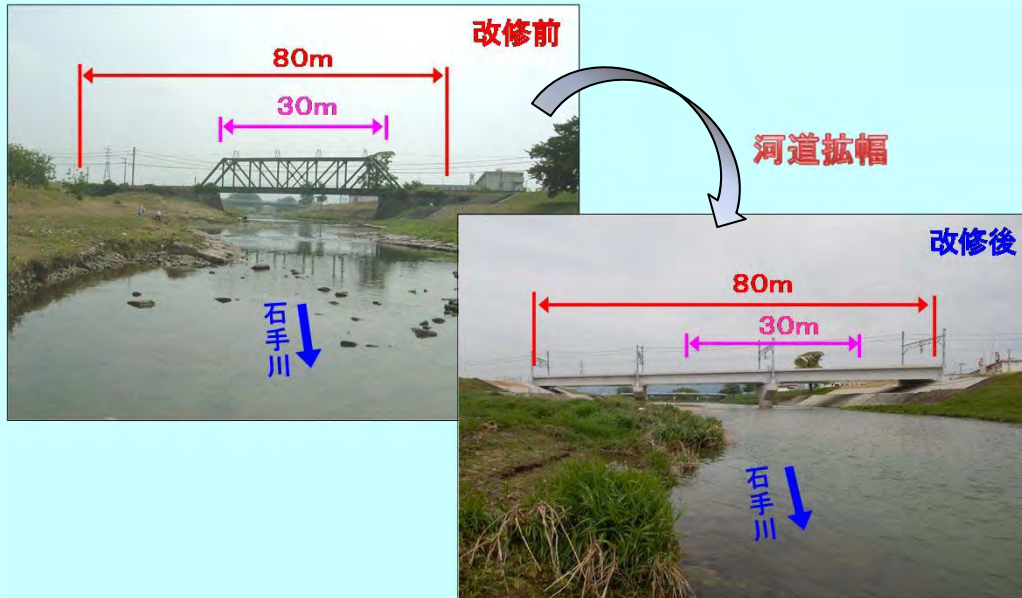
- 石手川の川幅約80mが、JR石手川橋梁地点で約30mに狭められており、洪水の流れに悪影響を与えることが懸念されていました。
- 上記を解消するため、平成22年度よりJR連続立体交差事業と連携して、河川改修事業を実施しておりましたが、平成30年3月に河川改修事業が完了し、狭窄部の解消が図られました。
- 平成30年5月20日には、事業の完了を記念し、竣工式が行われました。

【事業概要】

- ・工事延長:L=315m(橋梁改築50m、河川施工265m)
- ・河道掘削:L=315m、掘削量約18,000m³

【事業効果】

- ・流下能力が約45%増強(約1.8倍)



◆石手川改修事業竣工式

日時:平成30年5月20日(日)13:00～14:00
場所:愛媛県松山市市坪(愛媛県武道館前)
主催:松山河川国道事務所、愛媛県、松山市
行事:竣工式、記念セレモニー
来場者:

平井四国地方整備局長、上甲愛媛県副知事、
野志松山市長、武智伊予市長、岡本松前町長、加藤東温市長、
佐川砥部町長、塩崎衆議院議員、井原参議院議員、県・市議会議員、
用地協力者 ほか(合計 約230名)



出水期を迎える前に水防工法訓練を実施し、 技術習得と防災意識向上を図りました。

- 平成29年5月14日(日)、東温市と伊予市において、出水期を前に、水防技術の習得を図り、円滑な水防活動に資することを目的に水防工法訓練を開催しました。
- 市長や消防団、自主防災組織等の参加のもと、水防に関する取り組みの重要性を認識してもらい、防災意識の向上を図りました。

【東温市】

- 実施場所: 東温市横川原地先
- 参加者: 約180人(東温市長、消防団、自主防災組織、防災士、国土交通省)

○実施内容

- ・ロープワーク訓練、土のう製作、シート張工設置、水防工法に関するビデオ視聴



ロープワーク訓練



水防工法に関するビデオ上映



消防団員によるシート張工設置



消防団員による土のう製作

【伊予市】

- 実施場所: 伊予市中山町
- 参加者: 約130人(消防団、自主防災会、消防署、市職員)

○実施内容

- ・ロープワーク訓練、土のう製作、積み土のう工法訓練



消防団員によるロープワーク訓練



自主防災会、市職員によるロープワーク訓練



消防団員による土のう製作



土のう積み訓練

砥部町で災害図上訓練、防災用品点検、 炊き出し体験等を行いました。

- 平成29年7月2日、砥部町の八瀬自主防災組織が防災訓練を開催し、43名の方が参加しました。今回地図を用いて図上訓練を行い「地域を探求する」「災害を理解する」作業を行いました。
- また、平成29年7月24日～25日には、砥部町老人福祉センターで、砥部町社会福祉協議会主催の「砥部町こども防災キャンプ」が開催され、21人の小学生が参加しました。

①防災訓練、炊き出し体験、防災用品の点検

【実施内容】

- ・6グループに分かれ、避難所・避難行動要支援者の方の家等を把握
- ・図上で、河川・水路・道路・病院などの位置確認
- ・危険箇所・避難経路・浸水想定区域の確認
- ・乾物や缶詰を使った非常食の試食
- ・消火栓・消火ホース・防災用品の点検 など



DIG(災害図上訓練)の様子



非常食の試食の様子



消火栓・消火ホース・
防災用品点検の様子

②砥部町こども防災キャンプ

【実施内容】

ボーイスカウトの皆さん、医療技術大学の学生さんなどの協力のもと、2日間、盛りだくさんの内容で、防災について学習しました。

- ・1日目
避難所運営ゲーム(HUG)、火付け体験を含む炊き出し、
クロスロードゲーム、段ボール仕切り作り など
- ・2日目
防災食の体験、高齢者を車いすに乗せて避難訓練 など



避難所運営ゲーム(HUG)の様子



重信川の近くにある社会福祉施設で地元ボランティアも協力して 水害に備えるための避難訓練を行いました。

- 平成29年9月に県内を襲った台風第18号の教訓を生かそうと、平成29年10月25日（月）に松山市余戸南にある社会福祉施設で避難訓練が行われました。
- 今回の訓練では、想定していた避難先が想定浸水区域内にあったことから、浸水深以上の高さがある施設への避難を行いました。

- ・台風による重信川の水位が上昇し、避難勧告が発令されたという想定
- ・施設職員や地元ボランティアらを含む約80人が手順や連携を確認
- ・施設が平屋のため、約500m先にある4階と5階建ての2棟を所有する高齢者総合福祉施設へ避難
- ・ルート確認のため、二手に分かれて入所者らの車いすを押すなど、実際の災害時での行動を想定した訓練を行った。



避難の様子



避難所での人数確認、点呼の様子

松山市石井地区で防災意識向上のために防災訓練を実施しました。

- 平成30年2月18日(日)に松山市石井地区で今年の台風第18号の避難勧告を踏まえて防災訓練(主催:石井地区まちづくり協議会)を実施しました。
- 約160名の参加のもと、災害発生時の情報共有や地区防災計画の策定に向けての意見交換、非常食の試食などを行い、防災に必要な情報を共有するとともに、防災意識向上を図ることができました。

実施内容

第1部 災害発生時の情報共有について(台風第18号の事例を踏まえ)

- ①台風18号に伴う避難勧告等の経緯について
- ②石井地区からの情報共有についての提案
- ③避難行動要支援者の安否確認の情報収集について
- ④避難所の開設及び運営に関する意見交換
- ⑤大規模災害時の「三社協定の実施」に関する意見交換

第2部 「地区防災計画」の策定に向けての意見交換

第3部 地震の減災対策の意識向上について

第4部 非常食の試食



防災訓練の様子



会場の様子

松前町で防災士研修講座を開催

- 平成30年3月21日(水)に松前町役場で、松前町と松前町自主防災会連合会の主催により、防災士資格取得者を対象に、防災に関する最新の知見や知識を修得すること等を目的に、「平成29年度 松前町防災士研修講座」が開催されました。
- 松前町防災士61名の参加のもと、講義やグループディスカッションでの情報交換などにより、防災士間の協力・連携関係の構築を図るとともに、個々のスキルアップに資するものとなりました。

実施内容

- ◆浸水想定区域の避難について(情報提供)
(松山河川国道事務所より説明)
- ◆グループディスカッション
・参加者が9グループに分かれ、課題に対する意見交換
- ◆地区防災計画及び避難所運営マニュアルについて
(松前町より説明)



講義の様子



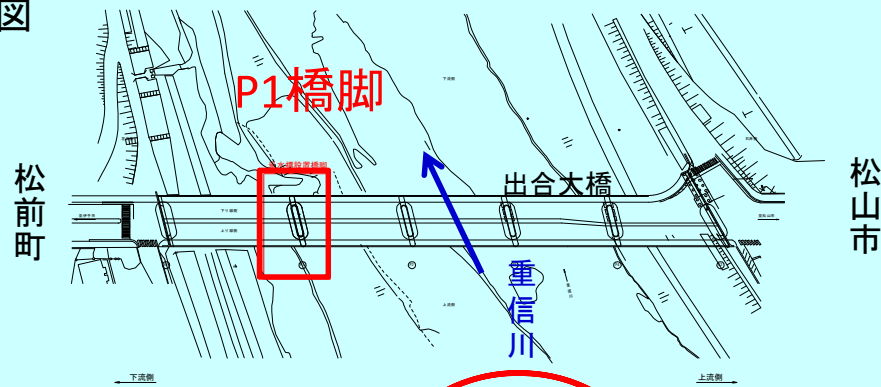
グループディスカッションの様子



出合大橋左岸側 (P1橋脚) に水位危険度表示板を設置

○減災対策協議会の取組の一環として、平成30年3月に出合大橋左岸側 (P1橋脚) に危険度が分かる水位危険度表示板を設置しました。(右岸側には既に設置済み)

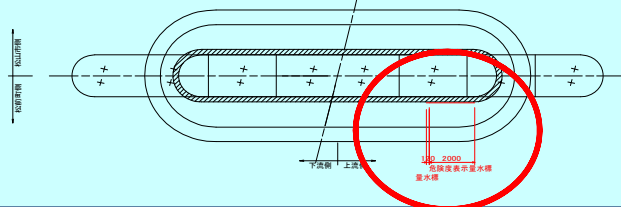
平面図



P1橋脚正面図



P1橋脚平面図









出合大橋左岸P1橋脚に設置した水位危険度表示板








各市町における取り組み状況①

日時	関係自治体等	取り組み	内容	代表写真
4月28日	砥部町	消防団消防技術訓練で「防災意識向上」のための取組を行いました。	<p>平成29年4月28日（金）に砥部町陶街道ゆとり公園多目的広場において、幹部団員及び新任消防団員を対象に「砥部町消防団消防技術訓練」が開催されました。</p> <p>新任消防団員には、消防団としての基本的な知識を教えるとともに消防活動に対する技術を習得させ、幹部団員には消防団員の育成・指導を図るために、指導者として必要な知識と技術等を修得させることを目的に実施しました。</p> <p>当日は、消防団長、副団長を中心に訓練を実施し、消防団としての自覚や機械器具等の使い方を再認識させ、砥部町消防団全体のレベルアップが図れました。</p>	 
5月14日	東温市	「東温市水防工法訓練」において「水防工法訓練講師」として参加しました。	<p>平成29年5月14日（日）に東温市重信川河川敷において、出水期を前に、水防作業時に行う工法訓練を修得すること等を目的に「東温市水防工法訓練」が開催され、「水防工法訓練講師」として松山河川国道事務所職員及び四国防災エキスパートが参加しました。</p> <p>また、従来の水防工法訓練に加え、松山河川国道事務所が提供した「水防工法に関するビデオ」を用いて、自主防災組織や防災士の方々を対象に上映会を開催しました。</p> <p>当日は東温市長も参加し、水防工法訓練に加えビデオ上映も行ったことで、水防に関する取組の重要性を認識してもらい、東温市全体として防災意識の向上が図れました。</p>	 
①5月30日 ②6月13日	松山河川 国道事務所	災害時の迅速な復旧支援活動に備えて「排水ポンプ車・無人玉外しフック」・「災害対策用機械等」の操作訓練を実施しました。	<p>①排水ポンプ車及び無人玉外しフックの操作訓練の実施 本訓練は、排水ポンプを迅速・確実に設置・排水できるようにすることを目的として、出水機前に実施している訓練です。 その訓練とあわせて、昨年度より実施している「無人玉外しフック」の活用による根固めブロックの投入訓練も行いました。</p> <p>②災害対策用機械等の操作訓練の実施 本訓練は、災害復旧支援活動を行う人材育成を目的として、災害対策用機械及び情報通信システムの操作訓練を実施しているものです。 訓練には、愛媛県内の国土交通省職員、土木建設業者や自治体職員計約70名が参加しました。車体が横に広がり現地対策本部として活用できる対策本部車、照明装置と発動発電機を搭載した照明車、静止衛星を利用して災害現場の映像などを本部に伝えることが出来る情報通信システムなどの操作方法を確認し、非常時に備えスキルアップを図りました。</p>	 

各市町における取り組み状況②

日時	関係自治体等	取り組み	内容	代表写真
①7月2日 ②7月24 ～25日	砥部町	災害図上訓練、 防災用品点検、 炊き出し体験等を行いました。	<p>①防災訓練、炊き出し体験、防災用品の点検 砥部町の八瀬自主防災組織が防災訓練を開催し、43名の方が参加しました。今回地図を用いて図上訓練を行い「地域を探求する」「災害を理解する」作業を行いました。 6グループに分かれ自己紹介後、自宅・避難所・避難行動要支援者の方の家にシールを貼り、河川・水路・道路・病院などをペンで地図上に記入しました。その後、避難情報についての説明を聞き、「避難勧告が出て、避難するという想定の中、危険箇所・避難経路・浸水想定区域などの確認をしました。 また日頃家庭にある乾物や缶詰を使った非常食を紹介いただき試食をし、その後消火栓・消火ホース・防災用品の点検及びミーティングを行いました。</p> <p>②砥部町こども防災キャンプの実施 砥部町老人福祉センターで、砥部町社会福祉協議会主催の「砥部町こども防災キャンプ」が開催され、21人の小学生が参加しました。 1日目は、避難所運営ゲーム(HUG)、火付け体験を含む炊き出し、クロスロードゲーム、段ボール仕切り作りを行い、2日目は、防災食の体験、実際に高齢者を車いすに乗せての避難訓練などを行いました。 ボーイスカウトの皆さん、医療技術大学の学生さんなどにも協力いただき、2日間、盛りだくさんの内容で、防災について学習しました。</p>	 
7月27日	松山地方気象台	「夏休みお天気フェア2017」 において「降雨体験装置」 による体験コーナーに 参加しました。	<p>松山地方気象台（松山市北持田町）で【夏休みお天気フェア2017】が開催されました。松山河川国道事務所では、降雨体験装置による『大雨を体験しよう』コーナーをメインに、ストック効果および重信川の魚類を紹介、平成6年の濁水に関するパネル展示、また重信川流域の『泉めぐり』、『重信川生物ガイドブック』パンフレットの配布を行いました。 降雨体験装置には、約200人の人々が体験し、イベント開始から終了まで、体験待ちの列が途切れることはありませんでした。近年たびたび発生しているゲリラ豪雨による水害を目の当たりにした、住民の防災意識の高まりを感じることができました。</p>	 
10月2～13日	松山河川 国道事務所	松山河川国道事務所と 流域市町の消防団等が合同で 台風第18号による被災箇所の 合同点検・訓練を 実施しました。	<p>平成29年9月17日（日）の台風第18号の影響により、重信川では氾濫危険水位を超える戦後最高水位となる大きな出水となりました。この出水により堤防漏水等の施設被害が発生したことを踏まえ、事務所長による3市2町の首長への被災状況等の説明を実施しました。 さらに松山河川国道事務所と流域市町の消防団等が合同で堤防等の点検を実施しました。あわせて迅速かつ適切な水防活動に万全を期すため、今回の被災状況を踏まえ、改めて堤防等の被災拡大の抑止を図る水防工法の実施訓練を行いました。訓練にあたっては、松山河川国道事務所職員と四国地方防災エキスパート（4名）が工法指導を行い、技術力向上を図りました。</p>	 

各市町における取り組み状況③

日時	関係自治体等	取り組み	内容	代表写真
10月25日	松山市	重信川付近の社会福祉施設で地元ボランティアも協力して水害に備えるための避難訓練を行いました。	<p>「重信川の減災に係る取組方針」に基づく取組の一環として、平成29年9月に県内を襲った台風第18号の教訓を生かそうと、10月25日（水）に松山市余戸南にある社会福祉施設で避難訓練が行われました。</p> <p>今回の訓練では、想定していた避難先が想定浸水区域内にあったことから、浸水深以上の高さがある施設への避難を行いました。</p> <p>台風による重信川の水位が上昇し、避難勧告が発令されたという仮定のもと施設職員や地元ボランティアらを含む約80人が手順や連携などを確認し、施設が平屋のため、約500m先にある4階と5階建ての2棟を所有する高齢者総合福祉施設に避難しました。</p> <p>また、ルート確認のため、二手に分かれて入所者らの車いすを押すなど、実際の災害時での行動を想定した訓練を行いました。</p>	 
11月30日	松山河川 国道事務所 松山地方 気象台	洪水予報文伝達訓練の実施	<p>○平成29年9月の台風第18号の対応を振り返り、今後の情報伝達に万全を期すため、平成29年11月30日（木）に松山河川国道事務所と松山地方気象台とで相互に確認しながら、洪水予報文の伝達訓練を実施しました。</p> <p>○この訓練では氾濫が発生し、その後、水位が下がるまでを想定し、実際に大きな洪水が起きた時と同じ作業を行いました。</p> <p>○今後も速やかな情報伝達を行うために適宜訓練を行っていきます。</p>	 
12月20日	愛媛県 松山河川 国道事務所	えひめ自助・共助推進大会で防災意識向上のための取組を実施	<p>○平成29年12月20日（水）ひめぎんホールにて、自助・共助の大切さについての理解を深めることを目的に「えひめ自助・共助推進大会」（愛媛県主催）が開催され、約900人が参加しました。</p> <p>「気象災害への備え～自助・共助で命を守る～」と題した講演や広島土砂災害と自主防災活動の取組についての活動事例発表に加え、「自然災害から身を守るために～地震・風水害と自助・共助～」を議題にパネルディスカッションも行われました。</p> <p>また、同時に国土交通省所有の災害対策本部車や照明車、愛媛県所有の地震体験車といった体験ブースも設置され、見学や体験等を通して防災意識向上を図りました。</p>	 

各市町における取り組み状況④

日時	関係自治体等	取り組み	内容	代表写真
1月13日	愛媛県 松山河川 国道事務所	「安心・安全ふれ愛フェア」で 防災意識向上のための取組を実施	<p>○平成30年1月13日(土)に中四国最大級の商業施設であるエミフル松前にて、県民の防災意識を向上させることを目的に「安心・安全ふれ愛フェア」(愛媛県主催)が開催され、約2万人の来場者がありました。</p> <p>国土交通省では、所有の災害対策本部車や照明車を設置、また今回のイベントでは約15団体が防災に関する展示物等を出展しており、重信川流域住民の方々に見学や体験等を通して防災意識向上を図ることができました。</p>	
2月18日	松山市	松山市石井地区で 防災意識向上のために 防災訓練を実施	<p>○平成30年2月18日(日)に松山市石井地区で今年の台風第18号の避難勧告を踏まえて防災訓練(主催:石井地区まちづくり協議会)を実施しました。</p> <p>○約160名の参加のもと、災害発生時の情報共有や地区防災計画の策定に向けての意見交換、非常食の試食などを行い、防災に必要な情報を共有するとともに、防災意識向上を図ることができました。</p> <p>実施内容</p> <p>第1部 災害発生時の情報共有について(台風第18号の事例を踏まえ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①台風18号に伴う避難勧告等の経緯について ②石井地区からの情報共有についての提案 ③避難行動要支援者の安否確認の情報収集について ④避難所の開設及び運営に関する意見交換 ⑤大規模災害時の「三社協定の実施」に関する意見交換 <p>第2部 「地区防災計画」の策定に向けての意見交換</p> <p>第3部 地震の減災対策の意識向上について</p> <p>第4部 非常食の試食</p>	  
3月21日	松前町	松前町で防災士研修講座 を開催	<p>○平成30年3月21日(水)に松前町役場で、松前町と松前町自主防災会連合会の主催により、防災士資格取得者を対象に、防災に関する最新の知見や知識を修得すること等を目的に、「平成29年度 松前町防災士研修講座」が開催されました。</p> <p>○松前町防災士61名の参加のもと、講義やグループディスカッションでの情報交換などにより、防災士間の協力・連携関係の構築を図るとともに、個々のスキルアップに資するものとなりました。</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆浸水想定区域の避難について(情報提供) (松山河川国道事務所より説明) ◆グループディスカッション ・参加者が9グループに分かれ、課題に対する意見交換 ◆地区防災計画及び避難所運営マニュアルについて (松前町より説明) 	 

プッシュ型配信による防災行動支援

◇重信川（国管理区間）では、平成29年9月17日の台風18号出水により出合基準地点で**戦後最高の水位となる5.65mを観測**。

◇氾濫危険水位（5.10m）を超過し氾濫のおそれがあることから、**流域3市2町の住民等約64万人に対し**、緊急速報メールを活用した洪水情報の**プッシュ型配信を四国で初めて実施**。

◇緊急速報メール（プッシュ型配信）により、迅速かつ幅広く情報を伝達でき、**住民等の主体的な防災行動を支援**。



重信川 5.0k付近 (特)危険箇所



配信作業の様子（松山河川国道事務所）

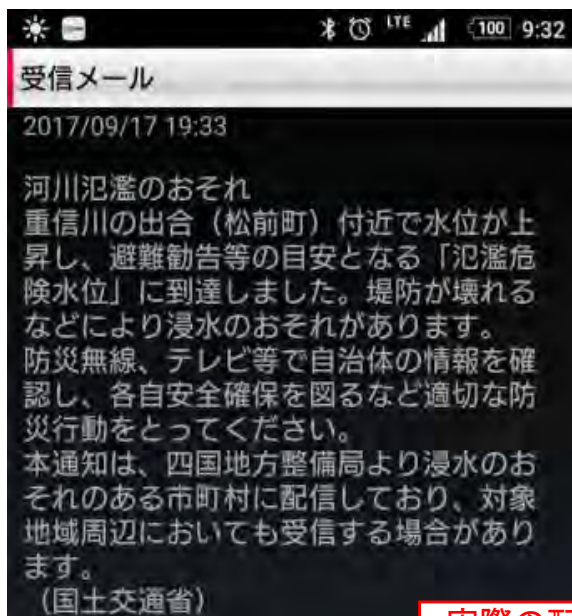
ホットラインの実施状況

◇重信川（国管理区間）では、水害対応タイムラインを活用し、**松山河川国道事務所長と市町長等のホットラインによる情報提供を延べ2回実施**。

◇ホットラインでは、**松山河川国道事務所から市町へ分かり易い浸水想定区域図を提供**して河川の状況等を詳しく伝え、それを受けた松山市では対象地域へ避難勧告を発令するなど、住民への避難の呼びかけを速やかに実施。**自治体の適切な避難判断に寄与**した。



ホットラインの様子



実際の配信画面

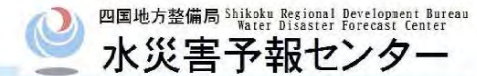


参考送付した浸水想定区域図

2 . 全国・四国の取り組み事例紹介

全国・四国の取り組み状況①

ニュースレター 四国水ビジョン vol.1



全国の取組状況(H29.8)のご紹介

【北海道開発局(旭川市)】

石狩川上流の減災に関する取組の実施状況(石狩川上流)

～小中学生を中心とした

石狩川の洪水の特徴を踏まえた防災教育の実施～

石狩川上流減災対策委員会において策定した、減災に関する取組方針の「概ね5年で実施する取組」に基づき、防災学習(出前講座)として、旭川市近文小学校4年～6年生が防災について学ぶことを目的に、「降雨体験機」による災害時の雨の体験、ハンディキャップを負った人の避難を想定した「避難シミュレーション」などを行いました。



避難シミュレーション及び降雨体験の状況

【近畿地整(姫路市)】

小学生約100名が浸水体験!(揖保川)

～水中歩行・水没ドア開閉を体験し、早期避難等の重要性を学ぶ～

揖保川減災対策協議会での議論をうけ、姫路市では揖保川沿川の小学生を対象に「水防」や「防災」についての体験型授業を平成29年度から実施しています。姫路河川国道事務所でも、子供の間に浸水した状況を経験し、早期避難等につなげることを目的に水中歩行・水没ドア開閉を体験できる装置を用いて、小学生に浸水した道路の避難を疑似体験してもらおうと共に、近年の水害や早期避難の重要性等を説明しました。



水中歩行、水没ドア開閉体験の様子

※取組内容の詳細については、下記本省webまたは各協議会webサイトでご確認ください。

■水災害意識社会再構築ビジョン本省web ; <http://www.mlit.go.jp/river/mizubousaivision/index.html>

四国の取組状況(H29.8)のご紹介

【砥部町】

砥部町で災害図上訓練、防災用品点検、炊き出し体験等を行いました。(重信川)

①砥部町の八瀬自主防災組織が防災訓練を開催し、43名の方が参加しました。日頃家庭にある乾物や缶詰を使った非常食の試食、消火栓・消火ホース・防災用品の点検及びミーティングを行いました。

②砥部町社会福祉協議会主催の「砥部町こども防災キャンプ」が開催され、21人の小学生が参加しました。避難所運営ゲーム(HUG)、火付け体験を含む炊き出し、クロスロードゲーム、段ボール仕切り作り、防災食の体験、実際に高齢者を車いすに乗せての避難訓練などを行いました。



①非常食の試食



②避難所運営ゲーム(HUG)

【香美市】

物部川 水防災意識社会 再構築ビジョンの取組状況(物部川)
～想定しうる最大規模の降雨も含めた浸水想定区域等の住民への周知～

想定しうる最大規模の降雨に伴う物部川の浸水想定区域等の概要について、地元説明会を香美市下ノ村地区ほか3地区62名に対して実施しました。参加者からは「最大規模とはどのような想定か」といった意見がありました。



説明会実施状況

全国・四国の取り組み状況③

ニュースレター 四国水ビジョン vol.2



全国の取組状況(H29.9)のご紹介

【北海道開発局(釧路管内)】

釧路川の防災教育推進に向けて「小・中学校教諭と意見交換」

新しい「河川環境・防災教育」を教科学習に導入できるよう、釧路管内の小・中学校の先生を対象に「川の防災教育を授業で実施するためには？」を考える意見交換を実施しました。

学習指導要領に基づく授業の全面実施に向けて、先生方は「何をどこから教えたらいのか？」等不安になっています。

今回、釧路管内の教育活動をサポートする釧路教育研究所と連携し、管内の小・中学校教諭を対象に川の防災教育の推進に向けた意見交換を実施しました。



- 【意見交換のテーマ】
川の防災教育を授業で実施するためには
- 【意見交換の内容】
- ・新学習指導要領と河川に係る防災教育の関係
 - ・授業を行う際に必要となる資料
 - ・釧路川版の指導計画や学習素材に向けて等

【関東地整】

みんなでタイムラインプロジェクト(鬼怒川・小貝川下流)

市町、県、国で構成する鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会では、逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のため、「みんなでタイムラインプロジェクト」を始動し、「自分の逃げ方」を手に入れることを目的として、市役所のサポートの下で住民一人ひとりがそれぞれの環境に合ったマイ・タイムラインを自ら検討する「マイ・タイムライン検討会」を設置しています。



↑ 「お天気キャスターとつくりよう！マイ・タイムライン」講座の様子

→ 映像提供：鬼怒川・小貝川上下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会



※取組内容の詳細については、下記本省webまたは各協議会webサイトでご確認ください。

■水災害意識社会再構築ビジョン本省web ; <http://www.mlit.go.jp/river/mizubousaivision/index.html>

全国・四国の取り組み状況④

ニュースレター 四国水ビジョン vol.2

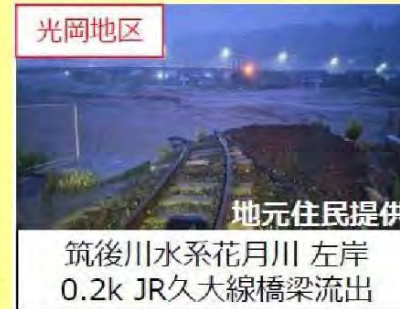


全国の効果事例(H29.9)のご紹介

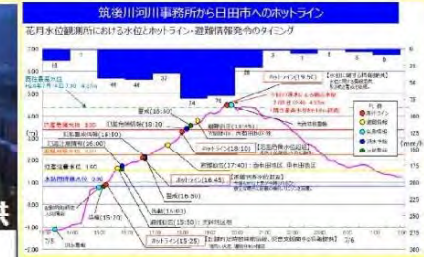
【九州地整】

筑後川河川事務所から日田市へのホットライン（筑後川上流）

- ▶ 自治体、大分県、熊本県、水資源機構、国からなる「筑後川上流圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会」で検討された減災に関する取組方針に基づき、**タイムラインを活用するとともに筑後川河川事務所長から自治体首長へのホットラインを実施。**
- ▶ 「平成29年7月九州北部豪雨」において、記録的な豪雨により花月川において、急激な水位上昇が予想されたことから、筑後川河川事務所長と日田市長間においてホットラインにより情報を共有。**連携を密にすることにより、日田市が対象地域に対し、適切に避難勧告・指示を発令。**住民への避難の呼びかけを実施することができた。



7月5日からの豪雨に伴い、花月川ではJR久大線橋梁の流出や、800戸を超える家屋の浸水被害が発生。



筑後川河川事務所長から日田市長へのホットライン

四国の取組状況(H29.9)のご紹介

【美馬市】

自主防災組織からの依頼により講習会を実施(吉野川上流)

8月18日(金)に美馬市の「拝東自主防災会」からの依頼により、拝東公会堂(美馬市脇町拝原)において、**堤防が決壊した場合の浸水の想定範囲や、浸水に備える行動について、講習会を実施し、約50名の地元住民の方々が参加されました。**

徳島河川国道事務所は講師として参加し、「各地で起こる災害は他人ごとでなく、吉野川でもいつ起こるか分かりません。だから、いざという時に備えて、皆さん自身や家族の方々とどうするのかを考えてください!」と、参加者に訴えました。



講習会の様子
受講された方の話:『各地でゲリラ豪雨などの被害が起きていて人ごとではない。避難方法を考えておきたい。』(平成29年8月19日 徳島新聞より)

浸水に備える行動などを紹介

浸水深に応じた避難行動

▶ 30cmを超える浸水が発生する可能性がある地域では、最上層に避難する必要があることから、早めの行動が避難の鍵となります。

浸水発生時に、避難への避難を行って下さい。

水害に備えた事前の心構え

▶ 被害を回復するための自衛策

排水溝の詰まりや目で判別できない汚濁物質の流出を防ぐため、事前に排水溝を清掃し、水が逆流しないよう対策を講じてください。